

特別講演 2

「大腸疾患、最近の話題

～カプセル内視鏡から便秘の治療まで～」

福井大学医学部附属病院 光学医療診療部 准教授

平松 活志 先生

便潜血反応免疫法 2 日法による大腸がん検診では受診者の 6.2%が要精検となっています。そのうちの 68%が大腸内視鏡による精密検査を受けており、うち 3.8%の人に癌が発見されています（平成 26 年度、日本対がん協会）。近年登場した大腸カプセル内視鏡は、ファイバースコープによる検査のような痛みや恥ずかしさが少ないため、精密検査のハードルを下げる可能性があります。また、がんを早期の段階で発見できれば、大きな病変でも内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）で根治させることができるようになりました。

一方、最近になり、新しい機序の便秘薬が話題になっています。従来の刺激性下剤や機械性下剤とは違い、小腸での粘液分泌を促進して便通を改善させるタイプの薬が登場し、便秘治療の新たな選択肢となっています。

本講演では、大腸がんの早期発見と内視鏡的治療、最近登場した新たな便秘薬などについて最近の話題をご紹介します。